



インスピレーションになろう

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：小林 恵一 幹事：菅原 茂秋

地区目標 「ロータリーの原点に戻ろう」 BACK TO BASICS

クラブテーマ 「あなた自身のロータリーを生きる」 ところに奉仕と友情の灯をともそう

◆点鐘：小林 恵一 会長 ◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ
◆司会：遠藤 正明 副 S.A.A. ◆会場：パレスグランデール

Yamagata West Rotary

第2836回例会

平成31年2月4日(月)

会長挨拶

小林 恵一 会長



今日は、立春です。昨日2月3日は節分でした。皆さん「豆まき」されましたでしょうか。我が家では、お頭つき半干しのめざしを串にさして玄関口に立て、豆は殻付きのピーナツを撒いて、鬼いわゆる邪気を払いました。ピーナツを撒くことには団塊の世代として、やや違和感があります。せめて、日頃食べている「でん六」の「炒り大豆」を撒きたかったところですが、家内に掃除が大変だからと云われてしまいました。

立春を過ぎますと季節は確実に春めいてまいります。このあと雨水、啓蟄、そして春分へと季節は廻ります。私は暦を太陽暦と旧暦の両方を併用していますが、日本の暦は精緻に出来ていると思います。太陽が最も低くなる「冬至」、最も高くなる「夏至」、中間の「春分」と「秋分」で1年の季節の流れを作っています。更に1年を24節気に分け季節の微妙な移り変わりを捉えます。

暦には太陽暦と太陰暦があって、日本では古来より江戸初期までは「太陰太陽暦」が長い間使われて来ました。その後は、中国や西洋の暦を参考にした独自の旧暦が使われましたが、日本が今の太陽暦を採用したのは、旧暦明治5年12月3日からです。

この時は、12月2日の次の日がいきなり明治6年1月1日になりました。つまり12月は実質なくなります。改暦が正式に決定されたのは、明治5年11月9日のことで太政官布告という法律によって、公布から改暦まで1か月もないという慌たじさでした。年末でしたので、既に翌年の暦は印刷されていて、この法律によって印刷されていた暦は、紙屑になってしまいました。

明治の改暦は突然で十分な検討もされないまま施行されたので、多くの誤りや問題を残しました。そこまでして明治政府が改暦を行った理由には、深刻な財政問題があったと言われています。

旧暦の明治6年は閏年で閏月が入るため1年が13か月の予定でしたが、改暦によりこれもなくなりました。明治維新で月給制度が導入されましたが、新政府の財政はまだまだ厳しかったので、この2か月分を浮かそうと目論んだのです。もちろん欧米で一般的に使用されている太陽暦に合わせるというのが主目的ではあるのですが、太陽暦に切り替えることによって、明治5年の12月は2日しかなくなり師走が消え、明治5年

の給与も閏月がなくなり1か月分減らせるという正に一石二鳥の改暦だったのです。

改暦とともに、それまでの暦に付き物だった「迷信的暦注」を政府は暦から削除しました。それもあって民衆からなかなか受け入れられず、暴動が起こり、農村では長い間旧暦が生き残ったため、全国的に新暦が用いられたのは戦後の高度成長期になってからと云われています。

本当は、旧暦の方が自然科学的であり「正しい」とされています。今でも世界の大多数の国や地域でいわゆる旧暦が使われていることも事実です。地方の農家など従来の慣習で、種蒔きから収穫まで行っていた人たちが季語を大事にする詩歌俳諧の世界の人たちの間に長く混乱が続いたようです。

太陰太陽暦は、営々となまれてきた日本人の知恵が蓄積されていることも忘れてはならないのではないかと。科学や正義ではなく予算のご都合主義によって改暦されたともいえるかも知れません。

「維新の改暦」に触れさせて頂きました。挨拶とさせて頂きます。

幹事報告

菅原 茂秋 幹事

- 2月のロータリーレートは、110円となっております。ちょうど財団寄付へのチャンスかなと思っておりますので、何とぞご協力をよろしくお願い申し上げます。
- IMが3月2日ということでご回答いただいておりますけれども、こちらにつきまして、バスのご案内と、2次会の出欠をまたご案内させていただきますので、ご回答いただければと思います。なお、バスのご移動は13時から開かれます柏倉邸でのひな人形鑑賞を30分ほどもうけさせていただいたのち会場へ移動となりますので、ご理解をいただければと思います。
- 本日は理事会がございまして、理事の皆さまはお残りいただきますようお願い申し上げます。

委員会報告

親睦・家族委員会

佐藤 吉博 委員

2月の会員誕生日、並びに奥さまの誕生日をご紹介します。会員が9名、奥さまが8名、誕生日を迎えられます。大変おめでとうございました。

「教え・教わり45年」 出会い・感謝

元 日大山形高校 野球部 監督

渋谷 良弥 氏



日大山形で30年、青森山田高校で10年、山形商業で5年、合計45年監督をやらせていただきました。3校合わせて1000名を超える教え子を出させていただきました。本当に素晴らしい教え子との出会いがあって、多くの方々に支えられて、22回甲子園に連れて行っていただきました。本当に感謝、感謝です。私、45年間の中で生徒に教えたことよりも、生徒から教わった、教えられたことのほうが多かったように思います。45年指導してきた思いを話させていただきます。

まず昭和44年、日本大学を卒業する時に日大山形から監督にということで要請がありました。大学4年間は、毎日草むしりをしたり、バッティングピッチャーをしたり、雑用でほとんどに4年間補欠の生活でした。そんなこともありまして、もう1回社会人でやりたいということで、静岡県清水にありますが金指造船所に就職しました。配属は人事部で、主に新入社員の教育係ということで、当時、造船所なんて山形弁でいうと、きかない野郎べらばっかりいっぱい来て、毎年300人くらい入るんですけども、3分の2は途中で辞めていく、そんな状態で、そんな高校を卒業した新入社員教育をやらせていただきました。その3年間というのはすごく、後の監督生活に大変勉強になったと思います。

それで、昭和47年に再度日大山形から監督にと、校長先生がわざわざ会社を訪問してくれまして決断をさせていただきました。来た時はとにかく、私も日大山形の卒業生ですから、母校の後輩でもあるその子たちのあまりにも荒唐していることに驚きました。部室のゴミ箱を見るとタバコの吸い殻があったり、上級生は威張り散らして、下級生はとにかく上級生の顔色をうかがいながらの練習。とてもとてもそんなチーム状態では勝てるわけがありませんでした。生徒の身だしなみを見ますと、いわゆるゾリを入れたり、鬢こを長くしたり、これじゃとにかく、私も会社勤めしてましたから、誰も信用してくれなくても七三にちゃんとしてたんです。とにかく自分から率先してやんなきゃなということで坊主頭にして、それ以来47年こういう頭になりました。グラウンドでも率先して自分から先頭に立って、山本五十六の書にあります「やってみて 言って聞かせて させてみて 誉めてやらねば 人は動かじ」と。25歳ですから、生徒が何をやっても大丈夫、勝てました。僕が投げれば生徒は打てませんし、バッティングやれば生徒よりも打てるし、走らせれば走る。そんなことで、生徒に「ああ、この監督、素晴らしいんだ

な」と、思い知らせて、それからスタートしたんです。

当時コーチなんていません。全部、何をやるにも1人でした。ですからもう練習、とにかくバッティングピッチャーやって、専門的なシートバッティング、それで投げて、キャッチャーもして、そのあとノック、大体2時間くらいやって、家に帰るのが9時過ぎ。もう、風呂入って、寝て、バッタンキューです。ですから今の高校野球を見てますと、私がやっている頃は、ほんとに椅子に座って、あるいはベンチに座ってなんていう時間ありませんでした。ですからほんとに今の監督さんたちは楽だなと思ってます。当時の練習も、若気の至りって言っちゃそれまでですけども、手も出る、足も出る、です。口も悪い。パワハラだなんだって問題になってますけども、今だったら恐らく永久追放じゃないかと思いません。ほんとにいい時に監督をやらせていただいたなと本当にそう思います。

それで、指導していく上でやっぱり一番大事なものは、生徒との信頼関係を築かなければいけないということで、とにかく心を込めて本気で生徒に向かう。怒る時も本気で怒りました。手も出ました。足も出ました。褒める時も本気で褒めてやりました。そんなことで生徒も「ああ、この監督、俺のことをちゃんと考えてるんだな、見てくれてるんだな」ということで信頼関係が築けたんじゃないかと思ってます。

うちの親父も野球好きで、よくグラウンドに見に来てました。それで親父に「良弥な、手を出すのもね、悪くはない。お前の信念でやってるんだらうけども。ただ、やられた子どもの心の痛みと体の痛みをわかる監督にならないとダメだよ」と言われました。当時25歳ですから「ああ、わかったよ」くらいで聞き流してたんでしょうけども、「ああ、親父の言うこと、こういうことだったのかな」と、改めて言葉の重みを感じたのが20年、30年の後でした。

それで、監督としての出だしは順風満帆とはいかなかったんです。当時、監督になってかなり辞めさせた子もいます。自分で辞めてった子もいるんですけども、残ったのは3年生たった2人だけでした。だから負けたなんて言い訳しませんが、春は県大会コールド負けです。夏は1回戦、今の鶴岡東ですか、旧鶴商学園に1回戦で負けてすぐ、今でこそ鶴岡なんていうと2時間くらいで行くんですけども、当時4時間半くらいかかりました。バスに揺られて六十里越えて砂ぼこりの中帰ってきて、グラウンドに直行した覚えがあります。本当にさんざんな出だしでした。

当然夏休みに入っただけの練習って毎日、やっぱり9時間くらいやりました。最初はほんとに倒れたり、救急車呼んだりの連続だったんですけども、夏休みの終わる頃にはもうほとんど全員がついてこれるようになって、自信になったというのがわかるくらい成長したと思ってました。練習試合も、春先からずっと負け、負け、負けだったんで、相手に大変失礼なんですけども、「あ、あのチームなら絶対勝てるな」というチームを選んで練習試合してました。当然、勝ちました。連戦連勝です。「豚もおだてりゃ」という、「おまえら、すご

い。強いじゃん] ということで、ほんとにその気になって、秋の県大会優勝してしまったんです。それで秋の東北大会も準決勝で東北高校、決勝で仙台育英。当時、山形のチームが東北高校、仙台育英を破るなんていうのは至難の業、ほんとに大変なことだったんです。ほんとに運よく東北大会で優勝しまして、次の年の春のセンバツに出場することができました。当時、47都道府県の中でセンバツに出てない県がたった1県あったんです。テレビのクイズ番組も当時ありましたけど、山形だったんです。ですから、47都道府県の最後のセンバツ出場県が山形です。1回戦、鳥取県代表の境高校と当たりまして、運良く勝ちました。私も監督として初めて。まだ26歳ですか、当時の監督としては、1番若かったです。何年前か、青森の最後で行ったときには、68歳。そのときには上から3番目でした。そんなことで、1回は勝てました。夏も当然、1県1校、その年は記念大会で1県1校だったんです。夏も運良く甲子園に出ることができて、鹿児島実業、当時、定岡正二という巨人のピッチャーがいましたけれど、2対1で勝って、春夏ともに、山形県初の1勝を記録しました。昭和48年は山形県の高野連にとっては高校野球スタートの年だったんじゃないかとそのように思います。

6年前、日大山形がベスト4に行きました。それが昭和48年からちょうど、初の1勝から40年でした。どこの報道関係もその1回戦から40年かかってベスト4までというのは、どこも取り上げてくれませんでした。残念だったと思うんです。東北6県で決勝まで行っていないのは、山形県だけになっちゃったんです。ベスト4までは6年前行きましたけれども、まだ優勝旗はありません。北海道には海を渡って行きました。去年、金足農業フィーバー、まだ白河の関を越えていません。当時、ベスト4に行ったのが、わが母校であります日大山形。そして、教え子である荒木準也監督であった。常々、荒木君にはとにかく歴史を作ったのは日大山形だし、これから歴史を塗り替えるのも日大山形だよと、言っています。まだ、深紅の優勝旗が白河の関を越えていません。是非、東北6県で山形が1番目に来てくれればなど。私も72歳ですので、生きている間に何とか越えて欲しいという願いであります。

私は生徒が入学・入部しますと、生徒、そして親も集めて指導方針を伝えます。私はとにかく「目的」と「目標」があると。「目的」というのは、とにかく野球を通じて、心と体を鍛える。人間形成にあるんだよ、ということをお話します。それにはまず3年間とにかくやり通すこと、やり抜くこと、それが絶対条件だと。俺2年生になって、3年生になってレギュラーになれなかったら辞めるとか辞めないとか、そんな気持ちのある子だったら今すぐ辞めて結構です、と話します。例えば、言葉遣いとか礼儀とか、スリッパの脱ぎ方から靴の揃え方、とにかく細かいこと、野球のことよりも、最初は技術よりもそういうことを重視しています。目標はやっぱり甲子園に出場すること、そして、甲子園で勝つこと。これが目標だよと。私個人としての目標は、生徒が入ってきて、3年

間のうちに1回は甲子園を経験させてあげたい。当然、グラウンドもありますし、アルプスでの応援も含めてです。それが生徒への恩返しというか、ご褒美だと、最低でも3年に1回、生徒を連れて行きたい。

今まで、日大山形で30年やりましたが、2(ふた)学年だけ3年間行けなかった学年があります。本当に私の至らなさと生徒を連れて行けなかったと大いに反省しています。日大山形も青森山田もとにかく部員が多いです。100名超えるときもありますし、だいたい100名前後くらいが毎年なんです。「100名を超える生徒の中からどうやって選手選ぶのや」とよく言われるんですけども、当然、技術もあります。私が重視しているのは4つほどあります。1つ目は、技術以上に野球の前の野球をしっかりとやれる、やるようにということ。それは例えば私生活とか、授業中の態度とか、そういったことをちゃんとやれる子です。野球だけ俺は上手ければいい、野球だけやっていればいいっていうのはダメです。やっぱり、精神的にそういう子はやっぱり大事なときにいいプレーもしますし、ここで何とか打って欲しいなというときには打ってくれます。そんなことで、野球の前のことをしっかりとやれる子。

2つ目は元気のある子。やっぱり、あの大観衆の中ですから、声が小さいのでは指示もできない。とにかく相手にも自分のチームにも。ですから、声の大きい子、元気な子。それが重視されます。

3つ目はベンチの中でも外でも、目配り、心配り、気配り、そういったことができる子をベンチに入れておくと、すごく監督は楽です。

4つ目は失敗をして言い訳をする子はダメです。おそらく、皆さんの周りにもそういう人がいるかとは思いますが、失敗したら素直に反省をして努力する、やり直す。そういう姿勢のない子は成長しません。私も絶対言い訳するのは1番嫌いな言葉です。負けたときは素直に生徒に「ごめん。監督が至らなくて負けた」と謝ります。勝ったときは、生徒の頑張りでということで生徒にもお礼は言います。

私は4年間、とにかく補欠でしたので、何とか補欠の子を大事にして、将棋じゃないですけども、飛車角だけではやっぱり勝てないんです、野球というのはみんなが協力して、特に3年生でベンチに入れない子も協力して、3年生の本当に縁の下の力持ち的な子がいると、レギュラー連中も「ああ、こいつらのために何とか甲子園に行かなきゃ」と。夏の大会近くなって、特に3年生のレギュラーでない子の目を見ると、今年は行けそうだなとか、今年はダメだなと、だいたい分かります。

私は1年の中で1番辛い日、嫌な日が1日あるんです。いつも恒例で夏の大会の開会式の2日前、ずっと45年決めてそうやってきたんですけども、大会のメンバーを発表するのが1番辛いですし、1番嫌な日です。やっぱり100人の中から20人しかメンバーには入れません。3年生もだいたい各学年、だいたい25~30人いますから、何人かメンバーに入れませ

ん。その入れない3年生の顔見るのが本当に辛い、嫌です。真っ暗になってから電気を消して、メンバーを発表します。毎日練習やっていますから、自分らで俺は入れそうか、ダメだっていうのは分かってはいるんでしょうが。メンバーを発表したら一目散にあとは帰るだけです。

昔の日大山形はグレーのユニフォームだったんです。要するに試合はグレーでやりますけども、メンバーに入れない3年生も2年生もいて全員で、白いTシャツを着てスタンドで応援していました。それを誰が言ったのかは分かりませんが「白虎隊」と称してました。昭和60、61、62と3年間、決勝で東海山形高校に負けて、甲子園に出られませんでした。監督した中で、その3年間で1番辛かったです。その63年、中桜田のグラウンドにみんな泊まって、そこから、野球場、試合場に行きましたので、決勝の前日、キャプテンが来ました。「監督さん、明日優勝したら、監督さんの前に白虎隊の連中を胴上げてやりたいんだけど」って。その言葉を聞いたとき、本当に涙出てきました。「俺、なんでそこまで気がつかなかったのかなあ」と、「よーし、明日何がなんでも勝ってやる、絶対勝たなきゃ」という強い思いで、決勝で東海山形に勝ちました。それで、その白虎隊の連中を胴上げてやりました。子たちが泣いて、抱きついてきて、私も号泣しました、よかったなど。その後、日大はそうやって補欠の子を先に胴上げすることが続きました。

今、45年を振り返ってみますと、家庭も家族も犠牲にしたと思ってます。子ども2人いるんですけども、うちの家内に、小学生の夏休み、冬休み終わって学校が始まる「学校行きたくない」とよく言い出したそうです。「なんで?」と聞いたら、作文を書かなきゃいけないみたいで、当然、海連れて行ったことも、蔵王にスキー連れて行ったことも1回もありません。小学校の授業参観にも、中学校、高校、大学の入学式、卒業式にも1回も出てやれませんでした。でも、おかげさまで2人とも素直に成長してくれたんで、家内には感謝しています。それともう1つ、本当に好きな野球を思う存分やらせてくれた家内にも本当に感謝、感謝です。特に青森に行ってから、10年のうちに8回甲子園に連れて行ってもらいました。本当に私の野球人生、悔いありませんし、本当に幸せな野球人生でした。

よく、いろんな人に「監督、甲子園ってどういうところなの?どういう場所なの?」と言われますけども、甲子園というのはすごく温かいとこだよって。温かいってどういう意味だっていうと、皆さんテレビ見てると、負けるとあそこのベンチのあのネット前で、あそこを通過して下の通路に消えて行くわけなんです。勝ったチームには「ああ、次もがんばれよ

というすごい拍手。負けたチームには勝ったチーム以上に「おーい、日大山形がんばったな。来年また来いよ」そういう声が飛んできます。「ああ、渋谷さんお疲れさん、来年また待ってるぞ」そういう言葉を聞くと「ああ、甲子園に来てよかったな」、今負けたばかりなんです。でも、「ああ、来年また来たいし、来年また絶対、来なきゃな」と。そういう意味で、本当に素晴らしい、何回でも行きたいし、何回行っても素晴らしいところだなと。温かいところだなと、私は感じております。

ニコニコBOX

長澤裕二さん／千歳山登山がニュースに。山形にいる日は毎日千歳山に登っていますが、先日おりに来たら女性からインタビュー受けました。何ぞ登っているのかという質問でした。もう何千回も登っている先輩が多いのに、私はまだ800回余りです。運の良さに感謝してニコニコします。

佐藤充昭さん／渋谷良弥氏をお迎えして!今日は我が同窓生である渋谷良弥氏を講師としてお招きして、心より歓迎します。

浦山 潔さん／渋谷監督をお迎えして…!長男と次男が日大野球部にお世話になりました…!おかげ様で大学卒業後、長男は仙台で独立して居を構え、次男は当店の後継ぎとして、それぞれ結婚、それぞれに男の子を授かり、又楽しめる?(野球をすればの話) ようになればと思います。監督さんいろいろご指導いただいたおかげでマジメに精一杯がんばっている事に感謝してニコニコいたします!!

お詫びと訂正

前回の第2835回会報の中で「ニコニコBOX」の佐藤充昭さんの文章と「幹事報告」の中の団体名表記に誤りがありましたので下記の通り訂正し、お詫び申し上げます。

〈ニコニコBOX〉

佐藤充昭さん／大神先生をお迎えして。大神先生とは、身体の大きさこそ違っても、とても気があう友達で長いつき合いをしてもらっています。大神先生が、もと、ロサンゼルスにいたせいもあってアメリカのパームスプリングスに、1週間くらい、2回もゴルフに、連れていってもらった事もありました。本日はその大神先生をお迎えして、心より歓迎致します。

〈幹事報告〉

(誤) 南高知ロータリークラブ

(正) 高知南ロータリークラブ

〈本日出席・修正出席〉

	会員総数	出席会員数		会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日出席 (1/28)	96名	58名	修正出席 (1/21)	96名	88名	84名	95.45%
メイクアップされた会員							